

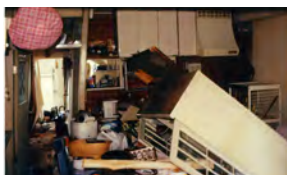
首都直下地震に備えて阪神・淡路大震災の教訓を 楽しみながらしっかり学べる防災プログラムのご紹介

被災体験者167人に聞いた本当に必要な知識と技

NPO法人プラス・アーツは、阪神・淡路大震災から10年目となる平成17年に被災体験者にヒアリングとアンケート調査を実施。災害直後や避難生活、そして地震が起こる前の備えについて本当に役立つ知識や技を聞き取り、それらを楽しみながらしっかりと学べる防災プログラムとして開発しました。小学生や親子対象に実施して頂けます。

代表的な体験談

「家具は飛んでくる」



「食器が割れて使えなかった」



「協力して火を消した」



「毛布や畳でけが人を運んだ」



体験を通じて学べる防災プログラムを開発

＜ 防災ワークショップ事例 ＞



水消火器で的あてゲーム

水消火器を使ってカエルの的をくるくる回し、カエルを振り返らせるゲームです。普段なかなか使えない消火器の使用手順を、ゲームの中で繰り返し使うことによって学ぶことができます。



対決!バケツリレー!

震災時には、たくさん火が発生し、住民が協力してバケツリレーで火を消すことが多かったと言われています。ゴミ箱や鍋など、水をすくうことのできるものでバケツリレーのコツを学びます。



毛布で担架タイムトライアル

震災時、担架の数が追いつかず、毛布や畳など身の回りにあるものを担架代わりに用いました。毛布の両端をくるくる丸めて担架をつくり、重量のあるカエル人形を運びます。
【開発協力者】 藤浩志(美術家)



ジャッキアップゲーム

地震で家が崩れ、ガレキの下敷きになってしまった人を救出する際、車のジャッキや油圧ジャッキが活用されました。意外と知られていないジャッキの使い方を楽しみながら学びます。
【開発協力者】 藤浩志(美術家)



とっさのひとこと

災害時の状況を表現した3コママンガの最後の吹き出しに入る“とっさのひとこと”を考え、被災者の気持ちや状況を理解してもらおう教材。プラス・アーツのHPから無料ダウンロード可。【共同開発】公益財団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン



防災体操

防災にちなんだ知恵や技を、体操の動きに盛り込みました。消火、人命救助などイザ!という時の知恵や技を、楽しい体操を通して学ぶことができます。
【開発者】 キスヒサタカ (アーティスト)



GURAGURA TOWN

買い物しながらゴールに向かうすごろくゲームです。ゲーム中、突如起こる地震で生じた困難を、その時持っているアイテムを工夫していかに乗り越えるか、参加者の柔軟な発想が問われます。平成26年リニューアル。



なまずの学校

楽しみながら防災の知識や災害時に必要な臨機応変な対応力を養うことができるカードゲームです。カードには災害時に役立つ豆知識のほか、そのアイテムがまちの中のどこに設置されているかが書かれています。平成26年リニューアル。



SHUFFLE(シャッフル)

防災に役立つ様々な知識を、身構えることなく、楽しみながら身に付けることができるカードゲームです。ガスメーターの復旧方法やAEDの使い方など、“イザ!”というときに役立つ知識や技と手順を、ゲームを通して覚えることができます。
【絵】 寄藤文平(グラフィックデザイナー)

学校や地域防災訓練で活用されています



「はっちーキッズ・サバイバル教室」
(小平市 小平八小子供教室)



放課後子供教室での導入事例
(多摩市立豊ヶ丘小学校)



放課後子供教室スタッフ等研修



イザ!カエルキャラバン!合同研修会

参加者の声

「子供にも実際にイメージしやすく、分かりやすいと思った。」(イザ!カエルキャラバン!参加者アンケート)

「いろいろなグッズがあり、子供教室だけでなく防災訓練イベントなど地域でも生かせればと思います。」(放課後子供教室スタッフ等研修会参加者アンケート)

「実際に大災害を経験した方の話をもとに作られたプログラムで分かりやすかったし、親しみやすいので、子供達にも伝えたい。」(同上研修会アンケート)